

2016年

(1) トイレ文化研究会

今年度のトイレ文化研究会は、災害時トイレについて座談会を開催いたしました。

座談会のテーマとして

- ・災害時トイレの種類と対象
- ・メンテナンスをどうしたらよいのか？
(清掃用具とトイレトペーパーは?)
- ・災害時トイレの課題と問題点
携帯トイレ、簡易トイレと仮設トイレの役割
- ・過去の教訓によって得た運用に当たっての要望
(各自治体のBCPへの提言、市民にはLCP提言)

- ・トイレ協会の役割は、何をすべきか？

3回実施の座談会では、結論には至っていない。

災害発生後の最低3日間を携帯トイレを使用せざるを得ない状況となることから、如何に一般家庭に対し、携帯トイレの備蓄を普及させていくことが大きな検討課題と捉え、さらにブラッシュアップしている。

【27年度開催日】

第1回

開催日：10月22日（木）

時 間：15:00～17:00

場 所：東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル
6F（レンタルのニッケン会議室）

第2回

開催日：12月21日（月）

時 間：15:00～17:00

場 所：東京都港区海岸 1-2-20 汐留ビルディング 24F
(TOTO株式会社 24F 大会議室3)



座談会風景

第3回

開催日：12月21日（月）

時 間：15:00～17:00

場 所：千代田区西神田 3-8-1 千代田ファーストビル東館 11F
(株式会社コマニー会議室)

2017年 トイレ文化研究会

8 研究会

(1) トイレ文化研究会

① 防災・災害用トイレの備蓄状況調査のためのアンケート実施

今年度のトイレ文化研究会／防災・災害トイレ特別研究会は昨年から「今後 30 年間に南海トラフ地震と首都直下地震が 70%の確率で発生する」と云う深刻な予測に対して、防災・災害用トイレの備蓄必要量とメーカーの生産量との関連等を調査研究して来ました。これまで全く調査していなかった国民の備蓄の実態について知るためにアンケート調査を 3 回実施しました。

ア 1 問 1,000 人 (全国対象) イ 10 問 協会所属企業社員対象 ウ 10 問 300 人(全国対象)

その結果、災害用トイレの備蓄率 15.3%をはじめ国民の関心が極めて低い状況が明確になりました。経済産業省やマスメディアに対して積極的なPRを行うよう要請しました。

② 台湾衛浴文化協会（台湾トイレ協会）からの招聘講演

2016 年 12 月 15 日に台湾衛浴文化協会定時総会が台北で開催され、高橋会長、谷本運営委員の 2 名が招聘され、「防災・災害トイレ」について講演を行った。

③ TOTOミュージアム（北九州市）見学

かねてからの懸案であったミュージアムの見学を 11 月 12 日～13 日 4 名で行った。